

栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	大阪府
推進地域名	大阪市

1. 事業推進の体制

(1) 栄養教諭を中核とした食育検討委員会

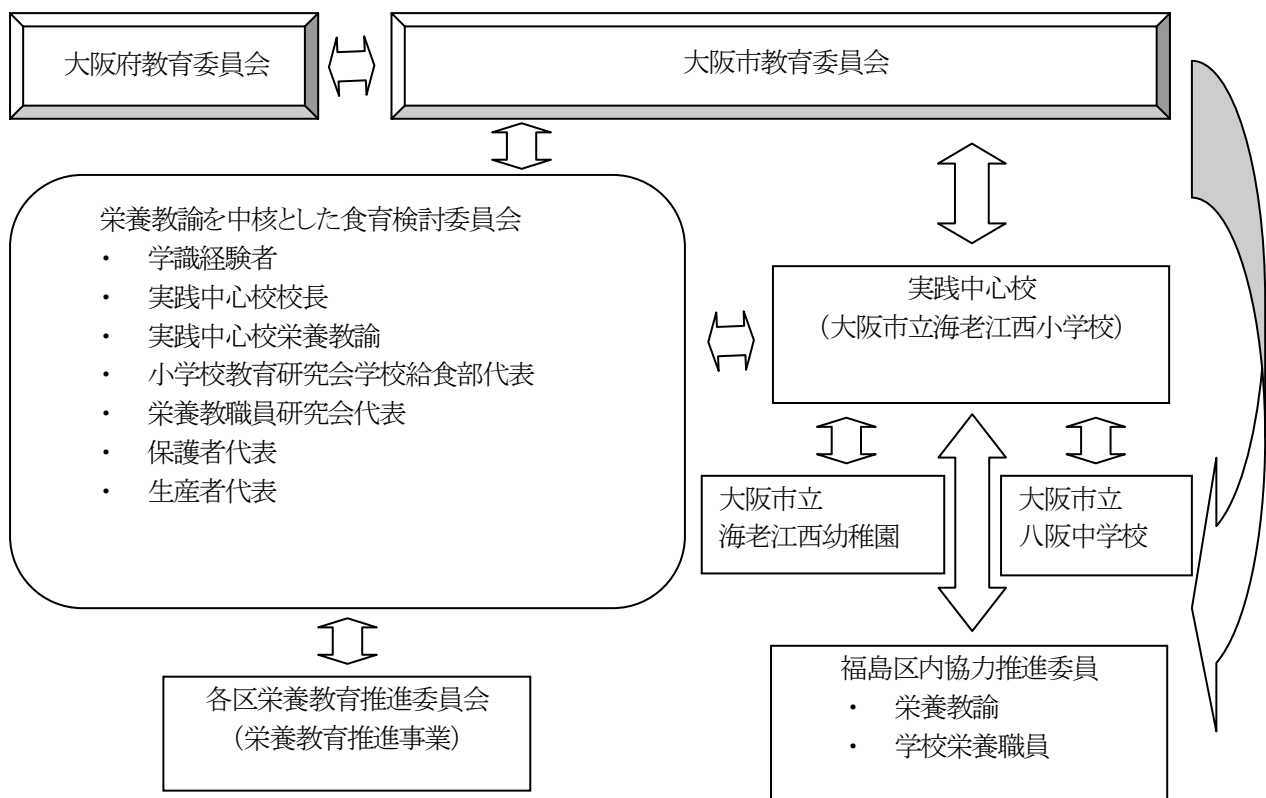
教育委員会、実践中心校の校長及び栄養教諭、大阪市PTA協議会、学識経験者等で構成する。

(2) 推進地域

(ア) 大阪市全域で、栄養教諭・学校栄養職員の専門性を活用した授業や保護者を対象とした啓発活動を行う。

(イ) 実践中心校の栄養教諭を中核として、校種間を通じた食に関する指導を行う。

イメージ図



2. 具体的取組等について

テーマ1 各教科等における食に関する指導の充実を図る方策

◎ 栄養教諭を中核として食に関する指導を全教育活動において推進

[実践校での関連教科等における食に関する指導の実践事例を研究]

(1) 第1・2学年 生活科「学校探検」



給食調理員より食材の説明

・学校の施設を見学し、給食に携わる人々の仕事について理解が深まった。

(2) 第2学年 生活科「えんどうのさやむき」



えんどうのさやむきを体験

・生命あるものにとって食や栄養が大切なことに気付くことができました。

(3) 第4学年 図画工作科「食育絵画」



食事風景の絵



食事風景の絵

・食を通じてのイメージを膨らませることでより心豊かな感性を育むことができました。

(4) 第5学年 国語科「インスタント食品とわたしたちの生活」



栄養教諭よりインスタント食品の栄養的な特徴の説明



栄養教諭より長期間の保存について説明

・栄養教諭がインスタント食品の良さや問題点の実例を示したり、一緒に考えたりすることにより、自分たちの食生活により身近なものとしてとらえることができ、教材文の読みを深め、自分の意見をもつことができました。

(5) 第6学年 家庭科「朝食に合うおかずを作ろう」



調理実習風景

・食事によく使用される食品を使った簡単な調理をし、日常生活で活用できるようになった。

◎ 栄養教諭を中核として食に関する指導を幼稚園・小学校・中学校を通じて推進

[実践校と幼稚園・中学校における食に関する指導の実践事例を研究]

(1) 幼稚園との連携

◆栽培体験



親子で苗植え風景

・親子で苗植えを楽しみ、野菜の生育や収穫に期待がもてた。



ふれあい広場風景

・幼稚園で栽培している野菜を通じて幼稚園児と小学生の児童が自然と同じ空間でふれあうことができた。

○栄養教諭が幼稚園の保護者対象に「幼児期の食生活について」をテーマに講演を行った。家庭における楽しい食事のあり方や早寝早起きの生活リズムの大切さなどについての理解が深まり、家庭での食育の重要性の啓発を図った。

◆PTA料理講習会「さつまいもでCooking!」



園児のさつまいも収穫風景



保護者のスイートポテト作り

・栄養教諭が講師となって、幼稚園の保護者対象に、小学校の家庭科室で、幼稚園で収穫した「さつまいも」を使ったスイートポテト作りを行った。この料理講習会を通じて、「さつまいも」に含まれる栄養素の話や秋の味覚を味わうことができた。

(2) 中学校との連携

◆ 第2学年 「見直そう『朝食』」



栄養教諭より食品に含まれる栄養素について説明

・朝食の役割を知り大切さを実感した。
・調理実習献立の内容から、体に必要な栄養素を考え、摂取する必要がある具体的な食品が分かった。

◎ 学校における食に関する指導を家庭・地域へ発信し、啓発していくための方策について明らかにする。

(1) 実践中心校における取組 (実践中心校の資料参照)

① PTA給食試食会

- ・ 給食の試食会に併せて調理の工夫や食品に含まれる栄養について説明を行った。

② わたしの食の目標

- ・ 子どもたちが望ましい食習慣を身に付けるため、4月に自分が立てた食に関する目標の達成に向け、1年間を通じて取り組めるように、家庭での食習慣 (朝食) についても保護者と連携を図った。

(2) 食育展の実施

① 目的

保護者・市民を対象とする展示を行うことにより、「食に関する指導」についての関心を高め、家庭における食育の重要性についての周知を図る。

② 内容

◆ 保護者を対象とした食育展 (7月 小学校で展示)

ア 食に関する指導の展示

- ・ 授業時間、給食時間に指導している内容や指導教材の掲示

イ 保護者や児童が参加・体験できる掲示

- ・ チャレンジ「すきなみそしる」

ウ 食育アンケートの結果紹介

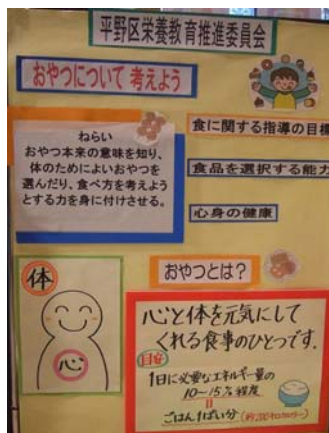
- ・ 朝食に関する内容をグラフなどで紹介

◆ 市民を対象とした食育展 (9月 市役所ロビーで展示)

市役所ロビーで、時代の変化による食事「かむ回数の変化」の紹介、食に関する指導教材を活用した「おやつについて考えよう」や「朝食を食べよう」等の展示を行った。



かむ回数の変化



おやつについて考えよう



5年生 朝食を食べよう

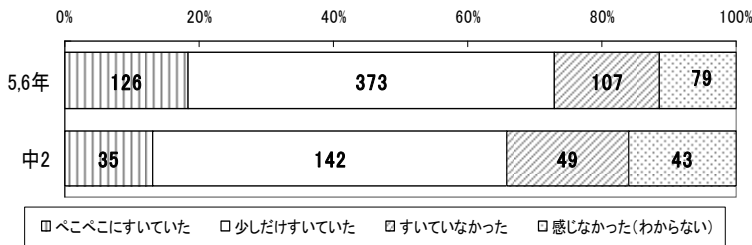
テーマ1～3に共通する具体的計画

◎ 実践中心校と協力校における食育の推進

1. 実践校と同じ区内の幼稚園3園、小学校9校、中学校3校における食に関するアンケート調査を実施
児童・生徒を対象とした主な質問項目

【食事に関すること】

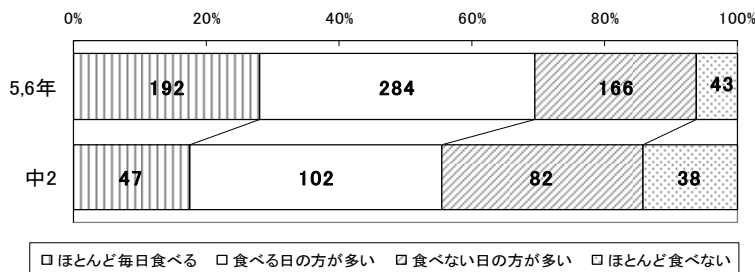
- ① 質問 けさ、起きたときにおなかがすいていましたか。



起床時に空腹感を感じない（「すいていなかった」「感じなかった」）が、児童27.1%、生徒が34.2%である。

【おやつの摂取に関すること】

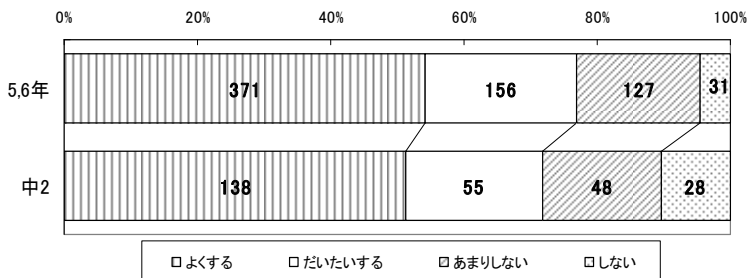
- ② 質問 おやつを食べますか。



生徒（55.3%）に比べ、児童（69.5%）のほうが、よくおやつを食べている。

【運動量に関すること】

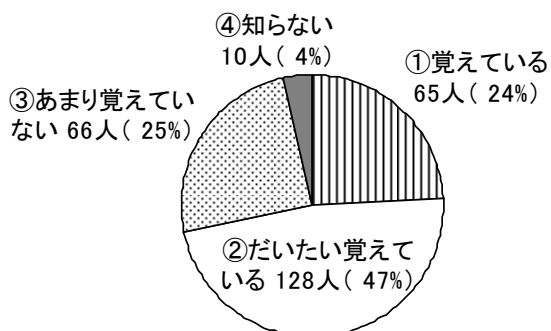
- ③ 質問 ふだん外に出て遊んだり、運動（スポーツ教室、スイミングスクールなど）をしたりしていますか。



普段の生活の中で自分が運動していると自覚している児童は77%、生徒は71.7%である。

【食事に対する意識に関すること】

- ④ 質問 食べ物の赤・黄・緑のグループについて覚えていますか。



71.8%の生徒が「覚えている」「だいたい覚えている」と答えている。「あまり覚えていない」「知らない」を大きく上回っている。

2. 食に関する実践事例集を作成し、全小中学校、府下市町村教育委員会へ配付し食育の発信を図る。

数字で変化のあった事項について

- | | | | |
|-------------------------------|-----|---|-----|
| ・学校給食献立コンクール応募小学校の変化 | 26% | → | 32% |
| ・ヘルシーグルメOSAKAアワード2010応募小学校の変化 | 18% | → | 41% |

事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

- ・栄養教諭を中核とした幼小中の連携による「食に関する指導」の取り組みにより、各校園種の教職員、保護者に「食育」の重要性が深められた。
- ・幼児、児童が身近な食品の栽培体験をすることにより、「食」への興味・関心が高まった。
- ・保護者を対象とした食育展を開催することにより、「食に関する指導」についての理解が深まり、実際に栄養バランスのとれた朝食の献立例やいろいろな食品に含まれる栄養素の働きを示すことで、家庭での栄養バランスのとれた食事の大切さについての普及啓発を図った。

今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

- ・教科のねらいを食育を通じて効果的に発揮するためには、食育のねらいと学習内容との関連を精査する必要がある。
- ・校種間の食育を進めるにあたっては、発達段階に応じた食に関する課題を明確にすることが重要である。
- ・全体計画を基に作成した年間指導計画を再検討し、食に関する学習を小中一貫した学校全体の教育活動に位置づけられるように推進を図ることが重要である。
- ・食に関する指導は、家庭・地域との連携が不可欠であるので、学校での学習を家庭・地域に返していくような手だてを工夫することが必要である。